

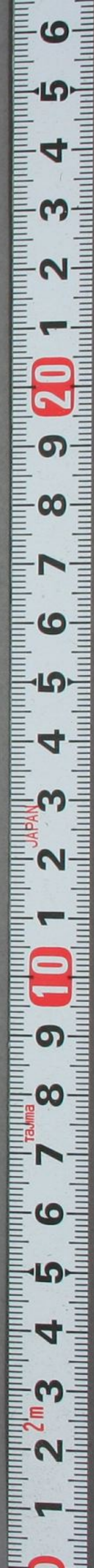
尾張
略名所

刀尾集

乾

~~Z
117~~

逍遙文庫
文庫6
1852





鶯谷之名尚矣詠于詩載于經
 其義取人待友以成焉密本
 吾聲性好風雅隱棲其地日
 共同志吟詠為培風月之暇面
 本州名輝輯一時詠句彫為小
 冊子其於求文也嚶以鳴予謂
 吾聲之名與壽梓俱不朽身

盤富

源嘉謀題

尾陽鶯谿舍吾聲

編

尾張

略名所

双尾集

乾

萬延元庚申歲仲冬



文庫6
1852

この尾張の國は昔より少くも
美しき一國にして古記に
地も平んば今も人のま
境の風系も多きを摸
そ此くの書は此の集を
葛野有昔翁子中は素

乞つたもたむた城の
多の國画の集は昔に
ふれあふはとあふ
あふのふ

葛野改元申考

十



美敷門初日

えくしえねぬ

をせよ

片のき

さくふ

金像

神日ホキ

初音

草童

年解

せと

そはゆ

ふちう

うん



美し今

清渚

あふり

流のき

あふりの言葉の

あふりや

下槌

燃田小年籠

あふり

若き

あふり

あふり



熱田驛

車たぬぬありふ

〜〜〜岩の美

アヲハ
昇陽

はくぢぢぢぢ

〜〜〜ヤツの松

華夕

み水やま井の

〜〜〜去年の雲

スナ
換翁



井部ま平たろろ

イセ
五鈴

〜〜〜都の海

〜〜〜松紅

海の

〜〜〜

み水や及込

桶よぢぢぢ

ギフ
樂五





大葉抄
 人申
 鬼の
 夕力井
 一松

何れまも
 山月
 何れまも
 かしら
 夜皮
 玉屋



其二
 大川
 梅牛
 吉平
 山田
 應
 手園更
 士店
 新

花柳のき

法徳のそ

東の枝

信子

北の枝

金の鏡

寺の枝

こころか

白あ

送

あまや

夢山

まね

Handwritten text in cursive style on the right page, enclosed in a rectangular border.

書ゆ十巻

歌井

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

Handwritten text in cursive style on the left page, enclosed in a rectangular border.

竹並の梅

惜 甲日

たろ 香安

月 梅

梅 豊友

お 好すぬ

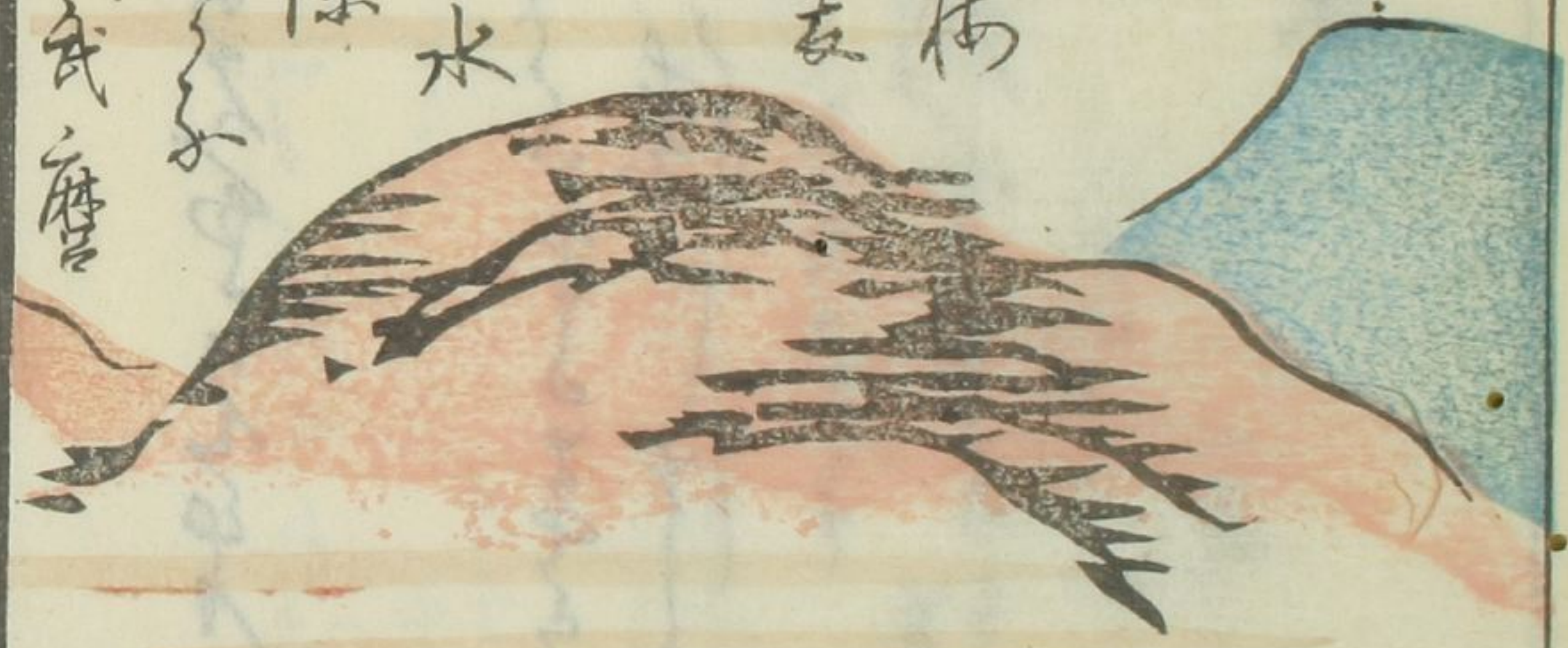
叫

秀水

又ふらら 掃除

しあ 竹梅

イナニテ 武磨



く 先 暎 卯 末 丈

介 子 末 七 末 丈

山 の 店

油 乃 末 七 末 丈 里 旭

お 係 一 月 小 梅

水 際 の 乃 一 乃 久 翁

ふ 一 梅 の 軒



二

日セト洞のねも里光

ゆきあそきや

梅を

香の川

梅の辺はや一美

梅のふ一軒

千を浅らそ

子はもあ梅の

白いう子

紫雪



く先暖や

梅のやせいる

知ヶあ

不丸

る列ね

まあるう係る

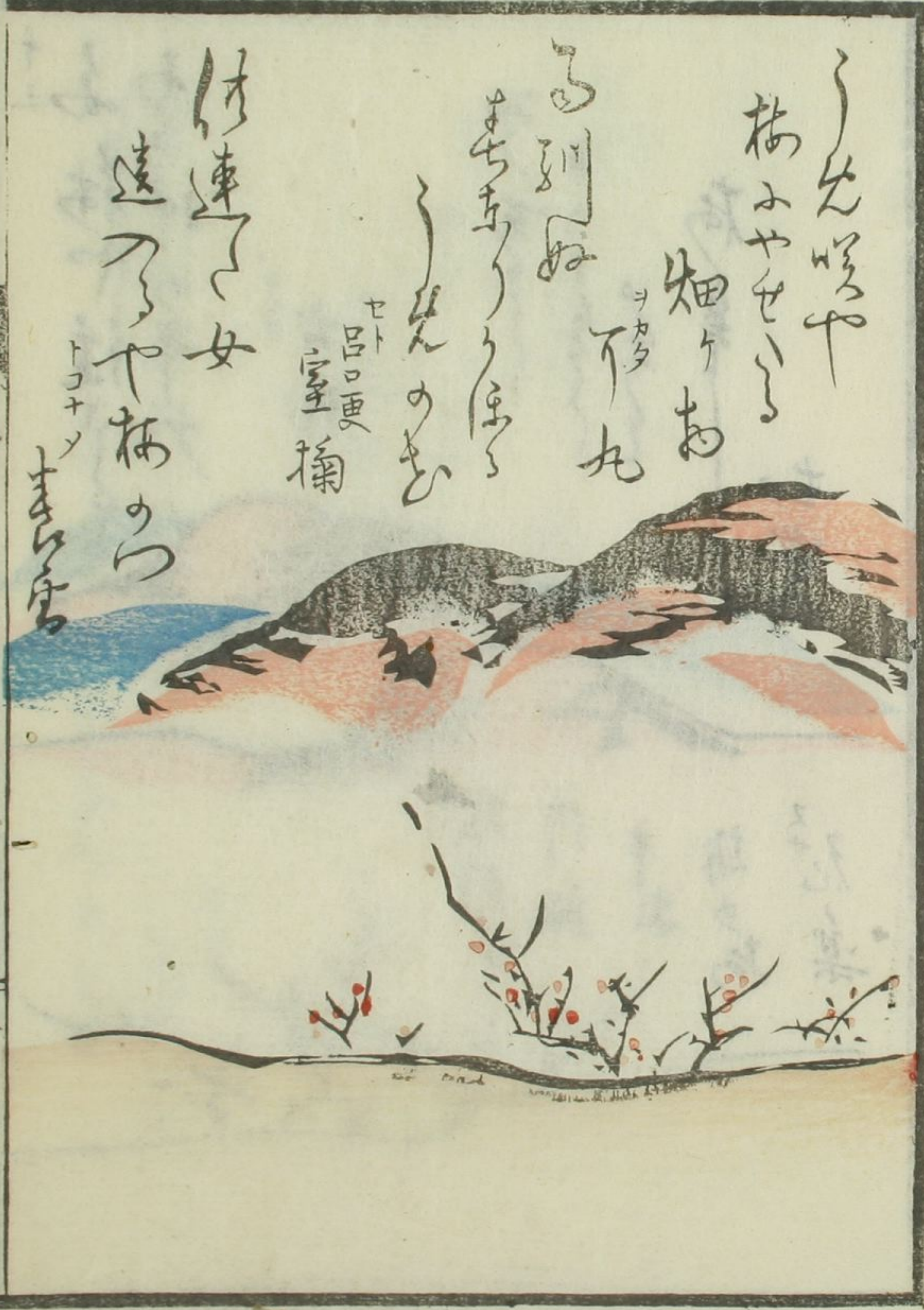
く先のま

セト
呂口更
室桶

付連る女

遠るや梅のら

トコナ
まらる



三
多
あ
神の井

八千五カ
古橋

み
日

の

と

梅

古



枝

行

主

朝

花



け

梅
意

梅

梅

り

押

梅

こ

海

の

下

うねるさき

うねるさき

うねるさき

うねるさき

うねるさき

うねるさき

うねるさき

うねるさき

うねるさき

うねるさき

うねるさき

うねるさき

うねるさき

うねるさき

うねるさき

うねるさき

うねるさき

うねるさき

うねるさき

うねるさき

うねるさき

うねるさき

東田西大池

長閑さや

ほろけを

芭の少翁

知子

梅枝

手籠の

高舟の可

心桂

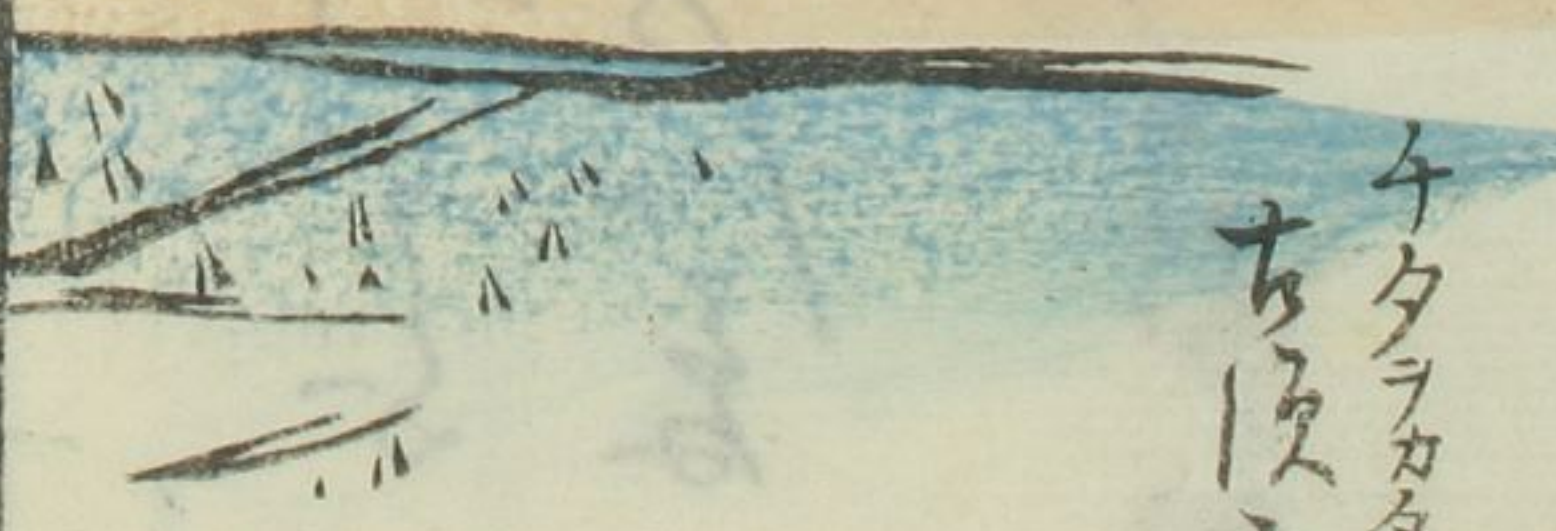
下京
里傳



木下橋の常てわ

眠る里水下わ

千夕ラカタ
古伝松



下京のやま道中 セト 真つ葉
日如を好の春

風流中

翠のら セト 胡法

雨さ

香のや

暖く

定ちりや

よまのあふ ミ 群島



三日月の夜

其二

柳の影を日影に

アツク

長古

立拂

中々存

何

む

多

章園



浮

小

く

ち

て

ま

の

伍晋



油山子

あ

あ

あ

楓

柳

の

日影

三

大

大

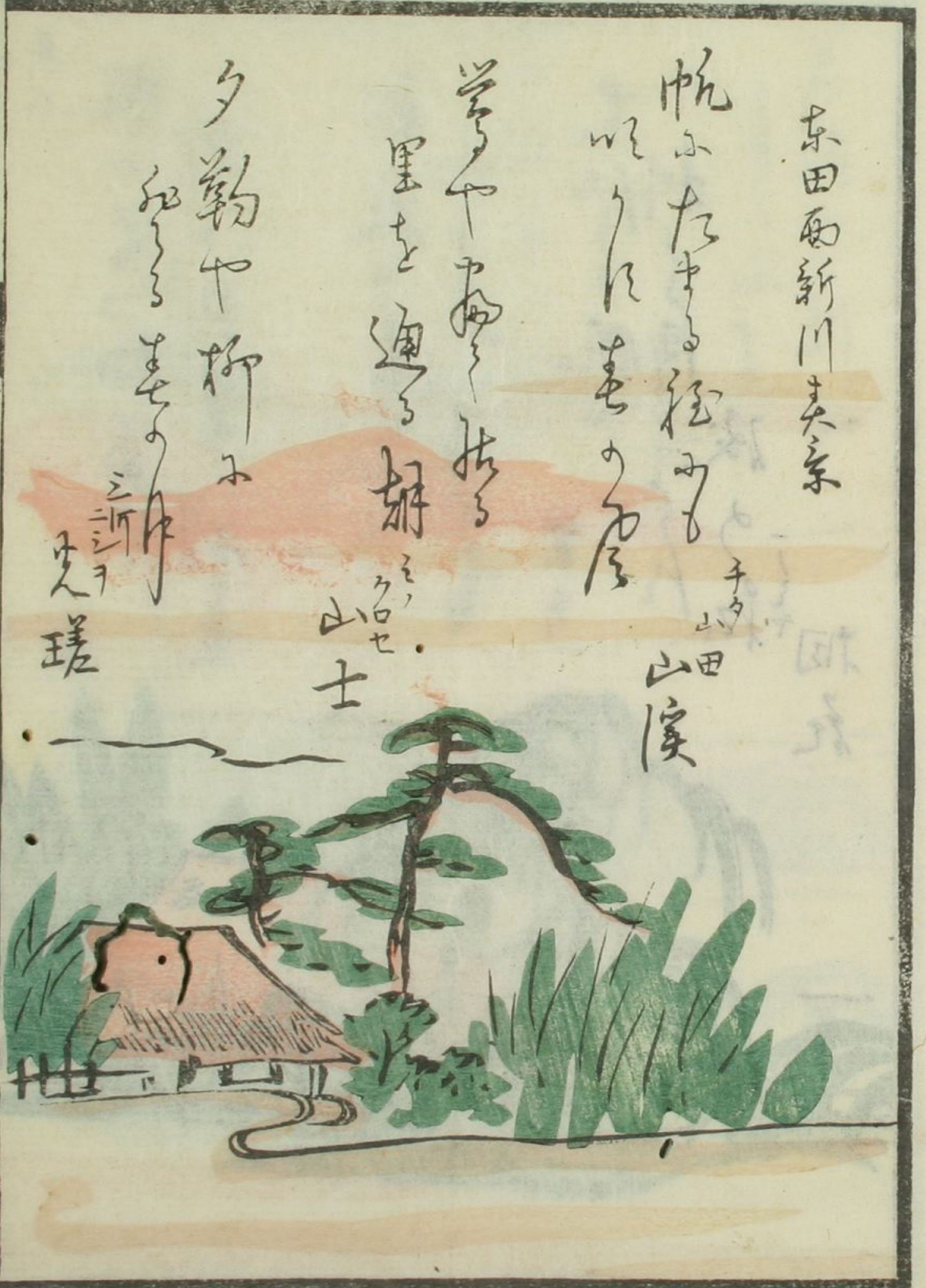
柳

秋



三

三



東田西新川美奈

帆ふたきる程すも
 山田山溪
 吹くは春の風

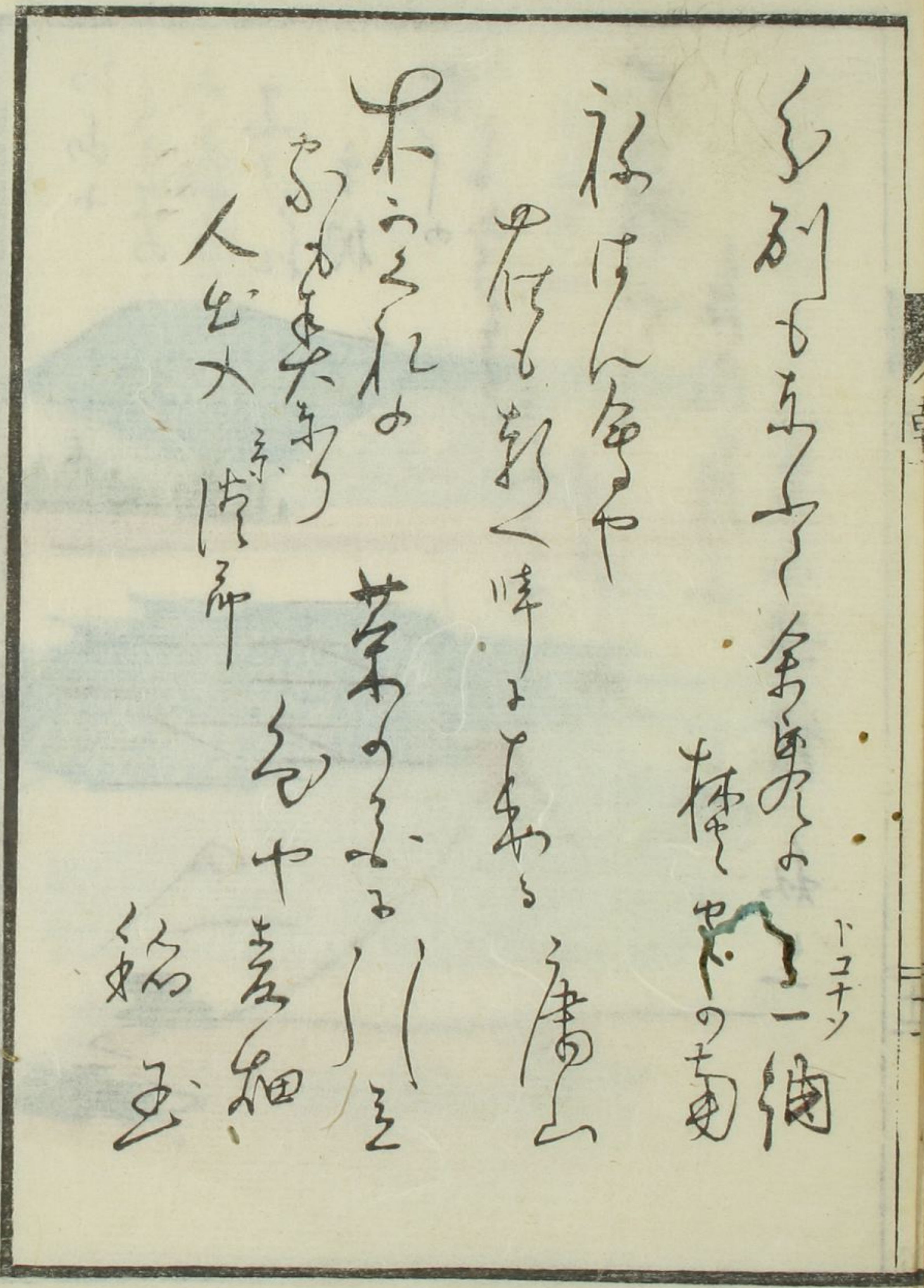
草や中庭に生る
 里を過る解
 山士

夕霧や柳子
 知るるまの月

三折
 子人
 瑛

帆

三



も別ちふさく余身のみ

トユナシ
 一畑
 梅や木のたむ

福はん命や

か何も新く味よとあ
 唐山

木ふたれぬ
 茶あのみよ
 一

かあまああり
 名やま細

人出大津師

船玉

八

三

眼小足つぬるや
柳子持系^ニ李^ニ壘

顔枝おまきの
中^ニやるの書

東^ノ舟^ノ帆^ノ
利^ノ屏^ノ吹^ノ花^ノ

後^ノ松^ノ
一^ノ三^ノヤ
桐^ノ花



若^ノ船^ノ中^ノ別^ノ小
三^ノ三^ノ三^ノ音^ノう^ノ

キ^ノフ
柳^ノ后

又^ノ船^ノ中^ノ少^ノの

吉^ノは^ノ多^ノや
帆^ノ月
夕^ノカ^ノキ
珠^ノ若

又^ノ船^ノ中^ノ少^ノの

部^ノ々^ノや
帆^ノ月

東^ノ湖



既

苗

熱田後汐下河

柳々々々々々々

ちかっくはうふ

稲玉

入水の道々々々々々々

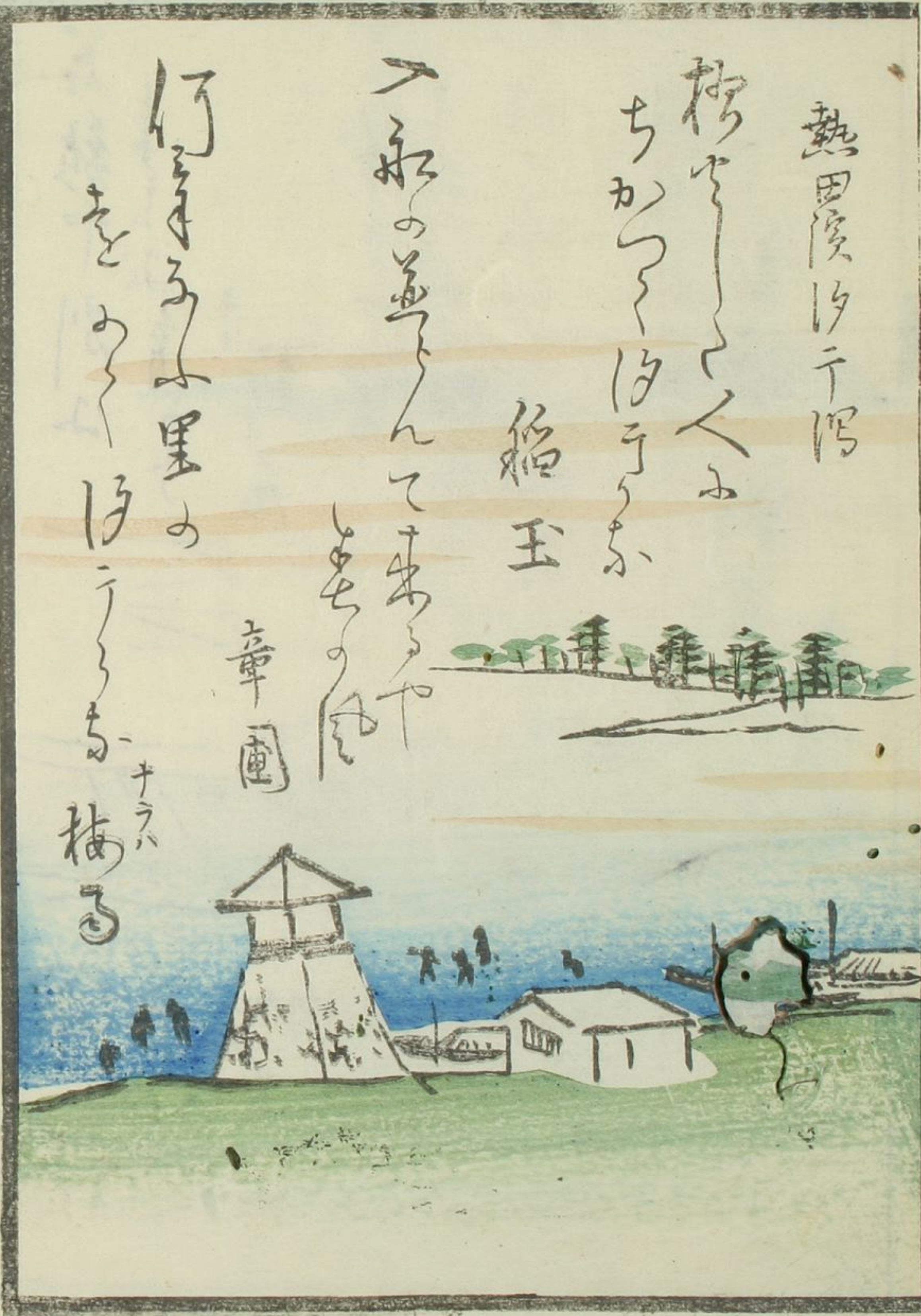
もとの風

章圃

何々々々々里の

をのくはうふ

梅る



人河

鳥もたふ

キラ 旭昇

夕下るふ

まの人の踏む

まの角

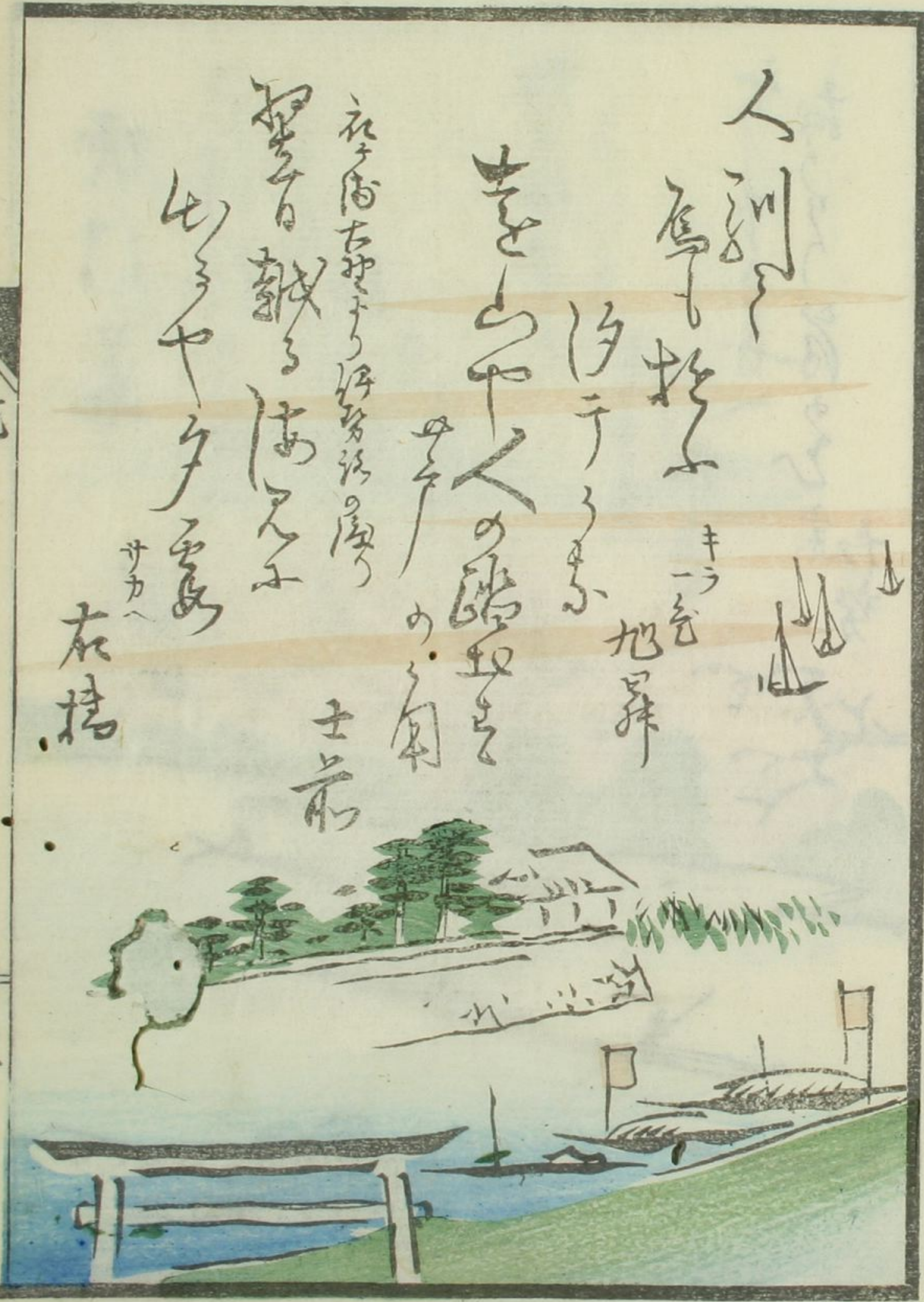
土前

夜を雨古柳下うほふ流るる

七々々々々々

サカハ

右橋



塘河の集

さびしみのみこ

まあり

松

楽田
桑耕

松の根えき

うらみあり
松の奥

ツキ
松月

あがり下る舟

松勢



ふきよのちハ
ツキ

松

之推

半くしとあら

松やふゆけ

トコナシ
松

名の日やほまこ

一は湖り

松



新晴や水舟 泉里
上りの人通り

行幸もおのれ 徹之
言はれしあはれ

いつの日の橋の 善法やちと後
一笑



山吹もあはれ 心ゆくまの

あはれの節り 芳の
友人 友人

途まのけり 梅屋
あはれ 水托

一日のあはれ 英岳

七ツ寺の事

石の朱くくくの一柱
笑き梅う子

証ありやおの章圃
明きぬおの奥

おの風あや
うん流わおの奥
油割



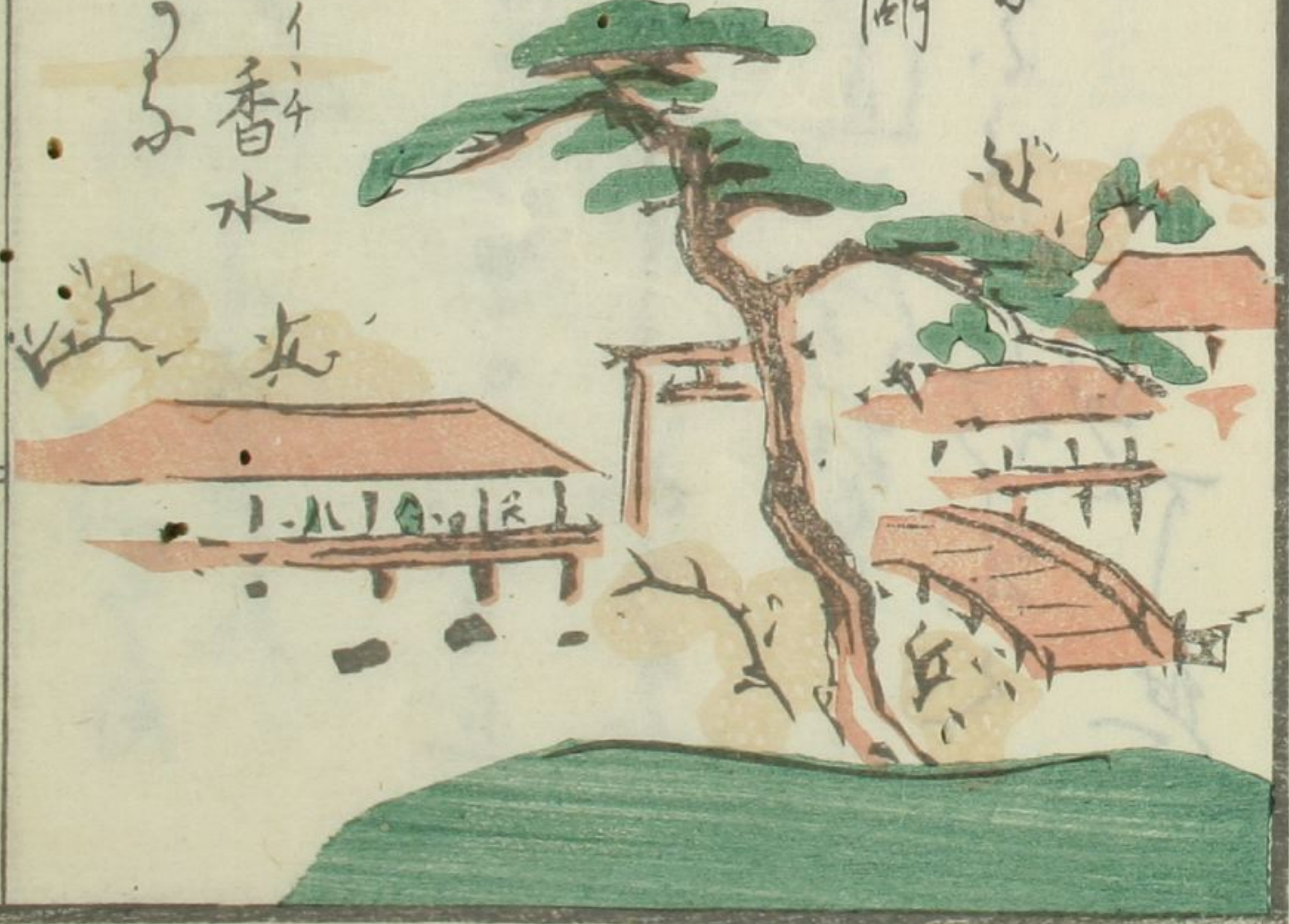
おの風あや
うん流わおの奥

暁湖

人きやあや
あをアアア

下
我五

日あは
香水
丸





二村山

手拵 谷津を

あけし 本と見たり

イナにて

一渡更

英岳

田小の都

並木のうけや

枯舟 妻人

河川 山下

かきとる

完伍

長崎

奥原より

ツマキ

湖せ

る

山

あけし

妻

り

や

華夕

一日

あけし

妻

極里

千
晴く好くおとけぬ
あまの部云々

降く

夏了

高き

池

海

二



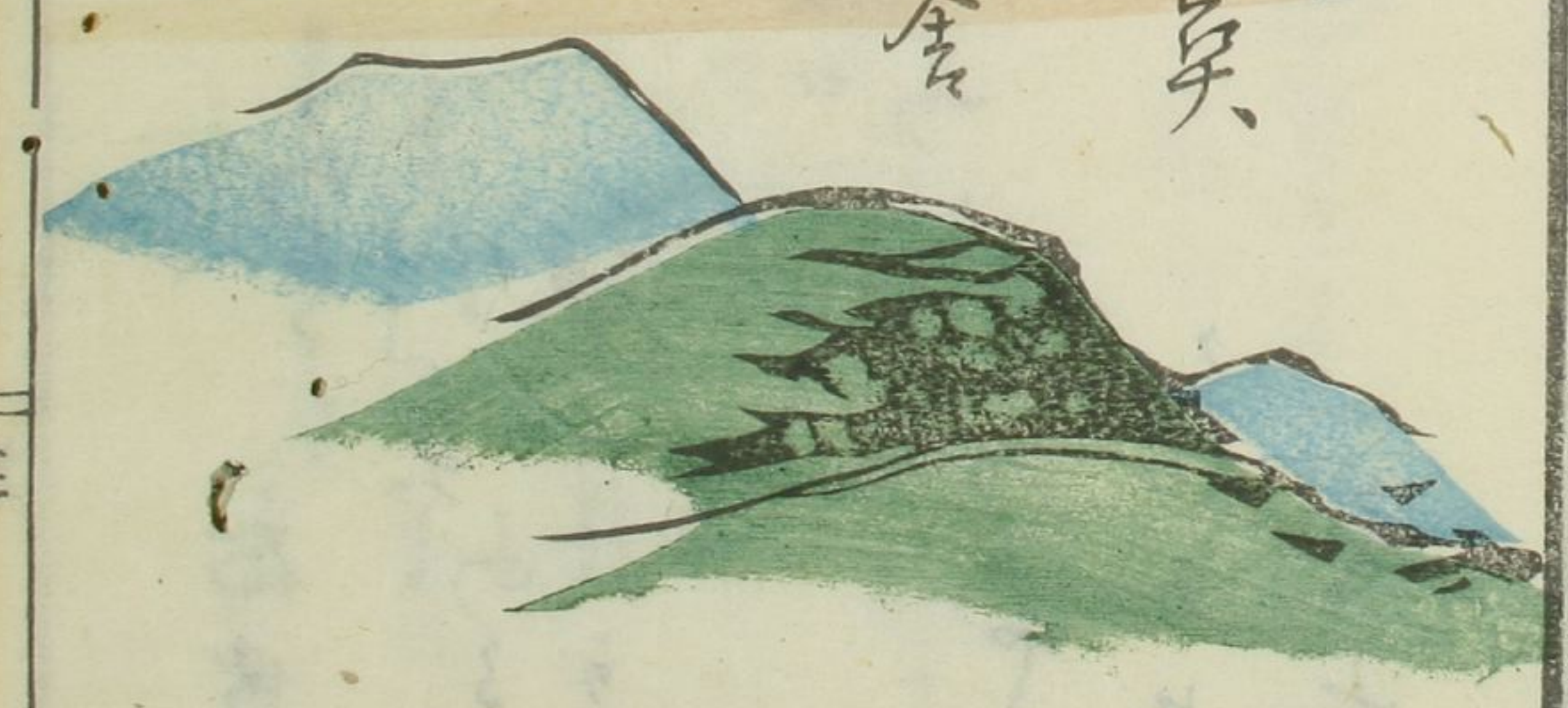
清い
ふく

き
涼
芥
舎

部
云

あ
海

只



糖元のり系
 九表
 新茶系
 福皮
 中川系
 印月系

石を根小

の

左系

つ

遠入系

店系

忌言

書系

美系

う系

下丸

ヲカク

新橋系

高系

新

え系

坂系

た系

人系

今系

赤系

下丸

杜系

店系

赤系

昭つづれ

休冬一

杜ふ

夕月か
之屋

晴うの

雪の

本

日よ

雪

雪

雪

喜木

山

泉

之

み
雪
部
城

雪
振
雪
山

里
泉
雪
雷

田
雪
山
溪

小牧

山をわたりて

高や今年休

イハクテラ

後をけり後

岩の

そら歌竹

麻柳やす

雨のよま

月の色

東車



山影の

眠る

さうらうら

大向

一好歌

そら

早の

山田

い

そら

夏の

全る



と一子
降下神
抱長
と

振
ふる
ふる
ふる

心古
心古
心古

公女

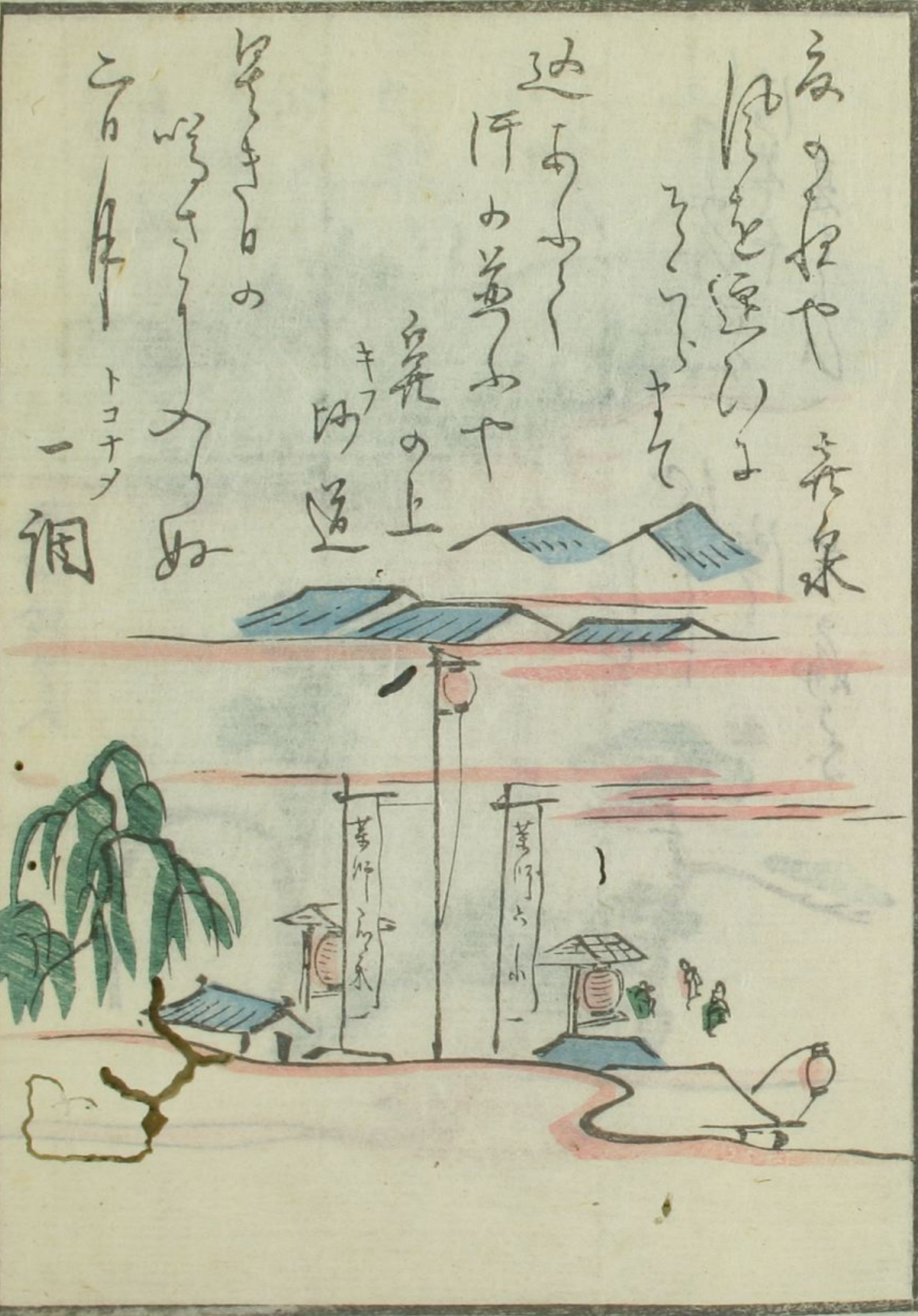
橋の所
美早子

解の事
古原

夕
降
と
五
と

り
名竹
と

笑
と



早稲田大学図書館

011688994634